



..... 国際ロータリー第2660地区 ■吹田江坂ロータリークラブ.....
SUITA ESAKA ROTARY CLUB
CLUB WEEKLY BULLETIN

創立年月日 / 1990.2.27
事務所 / 〒564-0063 吹田市江坂町1丁目23番101号(大同生命江坂ビル12F)
TEL06(6821)0222 FAX06(6821)0206 E-mail:esaka-rc@lake.ocn.ne.jp

例会場 / 新大阪江坂 東急イン・3F 〒564-0051 吹田市豊津町9番6号 TEL06(6338)0109 例会日 / 毎週火曜日 12:30~13:30
会長: 庄瀬 寛 幹事: 橋本 豊 会報委員長: 北山 陽一

2011年8月30日 第1010回例会(第1009号)

🌀 本日の例会 🌀

今週の歌 「四つのテスト」

卓話 「会員増強について」

田中 弘 広報委員長

🌀 次回例会のお知らせ(9月6日) 🌀

卓話 「『新世代のための月間』

に因んで」

西上 博幸 地区研修委員

本日の会長の時間

「女人結界の伝説」 庄瀬 会長

地元の言い伝えですが、大峯山の修行に励む役小角を案じた小角の母親が麓の里の洞川に住む小角の弟子を伴ない大峯山に登ろうとしました。谷にさしかかったところ、大蛇が2人が谷を渡ろうとするのを大きな口を開けて行く手を阻みます。2人はあきらめて洞川に引き返し、里に庵を結んで大峯山に向かい手を合わせて小角の無事を祈ったのです。光の中から「阿弥陀如来」が現れ、「お前たちは小角の修行を妨げてはいけません。小角が下山するまで里で待ちなさい」と告げました。以来その谷が蛇ヶ谷と呼ばれ、女人結界口と定めたのです。

里の人はこの役小角伝説により洞川の町から1キロほど離れた、大峯山の登山口に近い場所に「母公堂」という社を造り、その前に「従是女人結界」の石碑を建てたのが、1971年まで「結界口」だったところです。ところが、近年に女性の勢力が押し来て、そこからさらに2キロ山寄りのところに我々がいつも見ている「女人結界門」と「従是女人結界」の石碑が移って来たのです。

出席報告 寺井 委員

【8月23日】
在籍会員 40名(内出席規定適用免除者 9名)
出席会員 27名(内出席規定適用免除者 5名)
ホームクラブ出席率 75.00%

7月19日のMUを含む出席率 97.14%

前回〔8月23日〕例会記録

来客

菅沼 清高 様(卓話者・元警察庁官房長)
松井 良輔 君(関西大学RAC)
阪口 章吾 君(")

幹事報告 橋本 幹事
吉野新会員の所属委員会は、親睦活動委員会に決まりましたのでよろしくお願いします。

ニコニコ箱

庄瀬 会員 今年の大峯山修行も無事終える事が出来ました。

水谷 会員 庄瀬会長の先達で20日(土)・21日(日)、大峯山入峰修行してきました。大井様、西山様おつかれさま!!

大森 会員 キャンプでは孫がお世話になりました。

渡辺 会員 本日、早退します。

関西大学RAC例会出席担当

9月12日(月)・26日(月)

Cグループ 金馬、西村、榎谷、栢本
田中(弘)各会員

会場: 中央体育館 図書資料室

時間: 19:00~20:00

ロータリー、人類のために活動します (Rotary, Humanity in Motion)

卓 話

「巨額現金奪取と犯罪の美学」

(8月23日・第1009回)

元警察庁官房長 菅 沼 清 高 様
(西村会員紹介)



日本人と日本の社会には美学があった。人の言動、身の処し方、物事の決し方、生き方における美意識である。「ああ、いいな、美しいな、あのようになりたいな。」と思わせる行動の原理である。

今では、政治家にも有名人名にも、こうした美意識はなくなり、一般人にもこの意識はすっかり薄くなった。

かつて犯罪においてすら美学があった。「ワルはワルでもそこまでやってはいけない、そこまでやるものではない」という自製のルールである。

僅かな年金をもらって帰る老人から金をひったくったり、誰でもいいから殺して自分も死にたい」などという行為は犯罪者からも馬鹿にされた。

さて、先日東京立川で6億円の強盗事件があった。ところで巨額現金奪取事件には、一種の「犯罪の美学」があったものである。完全、完璧に実行された巨額現金奪取には犯罪ではあっても美学が感じられた。

1. 誰も殺さず、傷つけず、普通の人が一生涯かけても手に出来ない巨額の金を手に入れる。
2. 幾重にも張りめぐらされた人の警備、厳重なセキュリティシステムを巧みに破り、潜り抜ける。
3. 見事に逃走し、人も現金も捕捉させず事件は未解決のまま時効になる。
4. 奪取された巨額の金は保険、再保険、再々保険の仕組みで、誰にも金銭的損害はない。

犯罪でありながら犯罪の域を越えた痛快さを庶民に感じさせる、まさに美学観の勝利である。

こうした条件を満たした事件は、近年においては2件のみである。

昭和43年12月9日発生し時効の間に消えた、東京府中での「3億円」事件がそのひとつであり、そのふたつは昭和55年2月25日に発生、犯人不明のまま

時効になった大阪梅田の「ニセ夜間金庫」事件である。

この2件の見事さ、たくみさに較べれば先日の立川の6億円事件や昭和54年1月に発生した大阪住吉の三菱銀行北畠支店事件はまことに美学に乏しい事件である。

かつて現金奪取に加えて逃走の美学を感じさせる事件が外国にあった。

1963年8月にロンドン郊外で発生した大列車強盗事件である。263万ポンド、現在の貨幣価値を日本円に換算して100億円を奪った事件であり、完全に逃げのびた犯人の1人口ナルド ピックスの劇的逃走があった。

卓 話

「1年を振り返って」(8月9日・第1008回)

延 秀 恵 直前幹事

大役の幹事を終え1ヶ月程が経ち、改めて過ぎた1年を思い起こすと、“アレ?? 何をしたのだろうか?”と考えてしまう。昨年の6月、とても気持が緊張していたのを覚えている。1年間、水谷会長を助けて、クラブの為に幹事職を無事にやり終えることが出来るだろうか? という不安にも似た気持ちからだ。

上半期はガバナー公式訪問、ガバナーエレクト訪問、地区大会、2回の家族会、年次総会と大きな行事が多く、12月迄をクリアできれば、後は3月のG S Eだけなどと思ったのが悪かったのか、あの東北地方の巨大地震、津波、原発事故。結局G S Eは、キャンセルになり、正直なところ、RCのことだけでなくこれから何がどうなるのかという不安定要素ばかりに取り囲まれ、冷静に、冷静にと自分を落ち着かせたものだ。その後、地区方針を基に当クラブとしても理事会において何とか義援金の方針が出せ、少しホッとした。

また、パスト会長の田口氏が健康上、加藤・小笠原両氏が仕事上と3名の退会者が出た事は、とても残念で申し訳なく思っています。

昨年度の理事、役員の皆様本当にお世話になり有難うございました。またクラブ会員の皆様のご協力に心より御礼申し上げます。

今思うと、良い時期にお引受けしたのかもしれない。1年間に多くの事を、知識としてでなく(知識としての事柄は忘れてゆくので...)感性として勉強させていただき有難うございました。多々至らぬところはお許し下さい。一生懸命がんばりましたが、やはりひや汗だらけの1年でした。